

コミュニティキャンパスおかやま！～地域ニーズに応じた大学の社会貢献活動～

岡山県立大学 地域共同研究機構 COC+ 推進室

活動の目的

「コミュニティキャンパスおかやま」は、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」での取組を発展させ、県内大学の教員の研究・教育シーズを地域に還元し、社会貢献活動に取り組むことで、地域の人々の地域づくりの支援をはじめとする大学の地域貢献を推進する。また、学生も活動に参加することで、地域連携教育としての側面にも期待する。

活動の内容及び経過

○地域住民とともに地域の未来を考えるワークショップの開催

協働先の真庭市総合政策部 交流定住推進課および落合振興局地域振興課のニーズとして、醍醐桜で有名な真庭市別所地域における廃校利活用の活動について、地域住民の理解の促進や将来イメージの共有等を目的にワークショップを実施したいという想いがあった。

2019年12月1日（日）に別所地域にあるくるみの館にて、本学保健福祉学部 岩満賢次准教授が中山間地域の人口問題や全国の小学校跡地の廃校利用の事例などを紹介後、デザイン学部の1回生4名が中心となり、関係者および地域住民ら30名とともに現在の地域課題や将来の別所地域の夢を考えるワークショップを実施した。

○学生らによる手作りおもちゃ教室の開催

協働先の赤磐市政策推進課のニーズとして、児童に対する余暇活動の充実についての支援の要望があった。

2019年12月15日（日）に赤磐市熊山英国庭園にて、本学保健福祉学部の山本孝司教授と保健福祉学部の1回生1名と保健福祉学研究科の大学院生1名が担当し、子どもたち児童28名（保護者含め48名）を対象としたスライムづくりと凧づくりの手作りワークショップを実施した。

○空飛ぶカブトガニ凧の工作ワークショップ

協働先の笠岡市カブトガニ博物館のニーズとして、児童に対する余暇活動の充実についての支援の要望があった。また、打合せを重ねる中で、せっかくであれば、凧をカブトガニに模して、空へ飛ばすことを検討した。

2020年2月16日（日）に笠岡市カブトガニ博物館にて、本学保健福祉学部の山本孝司教授と保健福祉学研究科の大学院生2名が担当し、子どもたち児童16名（保護者含め28名）を対象としたカブトガニ凧づくりの手作りワークショップを実施した。



活動の成果・効果

大学が所在していない地域において、大学の教員や大学生と接するといった機会自体がない中で、コミュニティキャンパスおかやまの取組は地域において、高評価を得たのではないと思われる。特に大学生は、児童にとっては、普段接することのできないお兄さん、お姉さんの存在となり、親和性が高い。また、高齢者にとっても、孫世代の若者と接することで、こちらも親和がある。

また、大学が地域に出ることで、地域側のメリットは多く感じられるが、大学にとっても、大学生が地域から多くの「学び」を得られる機会となる。大学のキャンパス内で学んだ事を自身で複合的に考えながら、地域で実践することが社会に出た際の大きな糧となる事を期待する。

今後の課題と問題点

- 地域ニーズと大学シーズ（資源）とのマッチングとそのシステム化
- 地域での核となる団体やヒトの掘り起こし
- 県内大学におけるコミュニティキャンパスおかやまの理解と展開

●代表者：沖 陽子 ●所在地：総社市窪木
●TEL：0866-94-2000 ●E-MAIL：cocplus@oka-pu.ac.jp
●URL：https://www.oka-pu.ac.jp
●設立年：1993年 ●メンバー数：10名